（6）庄内川の自然を探訪（カヌーで川下り）

庄内川は岐阜県恵那市の夕立山(標高 727m)を水源として、春日井市内でも幾つもの支流と合流して伊勢湾に注ぐ延長 96Km の川です。

春日井市の境界を流れている距離は、実に総延長の約 20%にあたる 19.3Km です。

春日井市の文化を育んだこの川の自然を感じるために、川下りを実行しました。

① 川下り……p474
ア　事前準備
イ　さて出発!
ウ　乗り場を探す
エ　カヌーに乗る
オ　カヌーで出発
カ　一旦降りる
キ　再度出発!
ク　地層・岩石
ケ　再度乗り場を探す
コ　再度カヌーで出発!
サ　玉野川渓谷を過ぎ松河戸へ

② 河原の礫について……p481
③ 堰堤について……p483
④ 川の水質について……p483
⑤ 川でみかけた生物について……p484
⑥ 河原の利用について……p485
⑦ 約 20 キロのリバーツーリングを終える。……p485
⑧ 川で遊ぶ前に……p486

松河戸文化科学探求隊
隊長　長谷川 浩
080－3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
http://matsukawado.com/

①　川下り

ア　事前準備

春日井市内を流れる 19.3 キロを歩いて下るのは大変です。
やはりボートが良さそうです。
木曽川を川下りしている友達にカヌーを貸してもらいました。

さて、出発！

勝川駅まで自転車で

カヌーにもいろいろあるようで、パドル(こぐ道具)の違いによって、大きく「カナディアンカヌー」と「カヤック」に分けられるそうです。
ボートの形状や、海用と川下り用でも名称が異なるとのことです。
今回借りたのは、「インフレータブルカヤック」と呼ばれる川下り用のゴムボートで、パドルは両面に水かきが付いたタイプのものでした。(結局頂くことになりました)
かなり使用されている物で、穴が開いてないか心配だったので、家へ帰って早速空気を入れてみましたが大丈夫の様でした。

古虎渓駅のプラットホーム

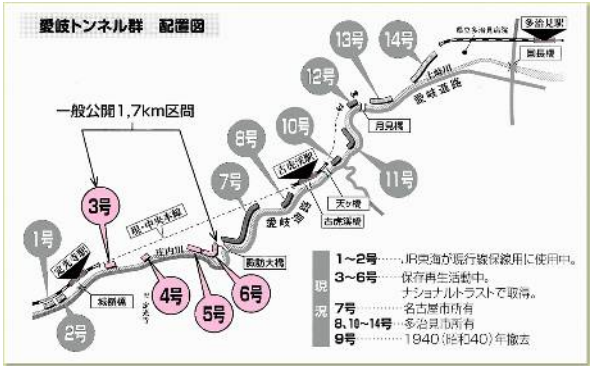
準備する物
・カヌー(リュックに入れて背負えるもの)、
・足踏み空気入れ、　・ライフジャケット、
・帽子(ヘルメット)、　・防水カメラ、
・食料(お茶、おにぎり等)、
・水着、・シャツ　・スニーカー

イ　さて出発！　(2020 年 8 月 9 日)

今年は梅雨明け(8 月 1 日)が遅く、既に 8 月 9 日、暑くなりそうな日曜日の朝を迎えました。
７時頃に家を出て、勝川駅から多治見行き普通(330 円)に乗りました。
高蔵寺駅を過ぎたあたりから春日井市の東部山地へ入り、両側の山が迫り渓谷が現れます。
その渓谷にへばりつくように作られた定光寺駅を通り越して古虎渓駅で下車、勝川駅から約 20 分程でした。

駅前の橋から下流を眺める

今は、定光寺から多治見までは 3 本の長いトンネルで繋がっていますが、　昭和 41 年の複線電化完成までは、今よりさらに川沿いに 14 のトンネルがありました。
その、愛岐トンネル群の 9 号トンネルを完全に撤去した跡にこの古虎渓駅が造られました。



今ボランティアの人たちがこの愛岐トンネル群を整備して観光地化しています。

車内は１両あたり５～6 名程乗客がいましたが皆マスクをしています。

今年３月頃から日本にも蔓延しだしたコロナ対策のためです。

県道 15 号を歩く
なかなか河原に降りられない。
諏訪大橋が見えてきた。

20 分程して古虎渓駅につきました。

一つ手前の定光寺は無人駅ですが、この駅は改札に私服を着た女の人がいました。

聞いてみると、古虎渓は多治見市が受託し、地元住民が長年に渡って乗車券発売を行っているとのことでした。

駅を出ると、目の前は美しい渓谷で、今回、川下りする庄内川(ここ岐阜県では土岐川と呼ぶ)の水も澄んでいます。

駅前の橋を渡り、県道 15 号線を渓流に沿って下っていきます。

この道は、愛岐道路と言って、昭和 62 年(1987) まで有料道路でした。

諏訪大橋は、愛岐処分場の専用橋

ウ　乗り場を探す

河原に出たいのですが、フェンスがあってなかなか降りられません。

けっこうな交通量で、川沿いの道は狭いので車が来る毎に立ち止まり、過ぎ去るのを待ちました。

10 分ほど歩くと赤い諏訪大橋が見えてきました。

ここを過ぎると愛知県に入ります。

諏訪大橋は、名古屋市の愛岐処分場の専用の橋で通行止めになっており、この向こうに、旧中央線の深見沢橋梁跡があるので行きたいのですが断念しました。

(河口から 42.2 Km)

ピクニック河原

下を見ると川が U 字形に大きくカーブしており、その内側にピクニック河原が見えました。

カヌーを設営するには絶好の場所です。

なんとか下まで降りることに成功しました。

川の水は清らかで、河原は細かい砂でできており、川床材料は 20 ㎝程の石で構成されています。

対岸には支流蛇ケ洞川が注いでおり、周りを見回し、束の間の休憩をとりました。

庄内川は、岐阜県では土岐川、愛知県に入ると玉野川、そして庄内川と名を変えますので、ここは玉野川と呼びます。

ピクニック河原でカヌーの設営

エ　カヌーに乗る

下半身は水着、上半身はポリエステルのＴシャツ(綿より速乾性がよい)にライフジャケットを着た。

帽子をかぶり、スニーカーを履いて準備は万全だ。

まずは足踏み式のポンプで空気を入れてボートづくり、これでもかというくらいパンパンに空気を入れた。

そして入水。どうすればいいか分からず、パドルで右へ左へと交互にこぐ。

その度にボートの先は左右に揺れて思う方向に進まないが、川の流れに助けられ、なんとか前進。

水面にちょこんと座り、流れと一体になる感触は気持ちがいいが、浅瀬は川の流れが速くなり少し怖い。

カヌーに乗ると、視線が水面に近くなり川が広く雄大に感じられる。

いざ出発!

上を見上げると両岸の山が屹立し、渓谷の中にいる自分が小さく感じる。

多治見から定光寺までの右岸は、愛岐トンネル群が続いており、ここから定光寺まではボランティアの人たちによってよく整備されています。

右岸の山の中腹に愛岐トンネル群の６号トンネルへ上がる玉野古道の一部が見えました。

早瀬は注意を ！

オ　カヌーで出発

少し練習し慣れたので、いざ出発!

この辺りは、水の流れは穏やかだ。

大きな岩と岩の間は流れが速いので気を付ける必要があるが、後は流れに身を任せて進むだけ。

しかし、流れが穏やかでないところもある。

ジャージャーという音と共に、白く三角立った波が目の前に立ちはだかる。

愛岐トンネル群の看板

縦揺れが始まり、ボコンボコンとビニールの船底越しに尻を突く、「一体どうすればいいんだ!?」とりあえずパドルを見ずに突っ込んで必死にこぎ、ハラハラしながらも乗り切った。

さらに、大きな岩が川の中に目立つようになってきた。

川は岩石の屹立する中を急流となっている。

行く手に大きな岩が立ちはだかっている。

どけようとするのだが、なかなかうまくいかない。ぶつかる!

玉野堰堤　　左岸上流から

しかし岩に近付くとカヌーが自分で避けてくれた。
なんだこんなものかと感心し安堵した。
でも、もし水に落ちてもライフジャケットを着ていれば大丈夫。慣れると波が荒いのも楽しい。
少し進むと、右岸には、愛岐トンネル群の大きな看板がみえてきた。

玉野堰堤　左岸下流から

愛岐トンネル群は、玉野古道とともにボランティアの人たちによって整備されているところで、平成 28 年に「3 号トンネル」、「4 号トンネル」と「旧中央線笠石洞暗渠」の 3 つが、春日井市で初めて国の登録有形文化財になりました。
特に秋のモミジは素晴らしく、春の桜の時季とともに大勢の人たちが見物に来るようになりました。

気が付くとなんだか川の様子が変わってきた。川幅が広くなり、流れも緩やかになり、水深も深くなってきた。
玉野堰堤だ!

城嶺橋と奥が廃墟の千歳楼

カ　一旦降りる

この堰堤を乗り越えることは命に関わると思い、出発してからたった 15 分程だったが、岸に寄せて船から降りることとしました。
一度船に乗ると降りるのが億劫だが、このような堰があとどれくらいあるだろうか?
玉野堰堤で取水された水は、玉野用水を経て、玉野水力発電へ送られ、今も玉野周辺の電力供給と田畑を潤しています。

城嶺橋の上から、左が應夢亭
奥へ行くと定光寺

県道 15 号を 10 分ほど歩くと城嶺橋が見えてきました。
城嶺橋は、昭和 12 年(1937)に京都四条大橋を模して造られ、親柱の揮毫「城嶺橋」は徳川家十九代義親氏によるものです。
大正期の水平線、垂直線を強調する「セセッション」風デザインとのことで、なんとも趣があります。

この辺りから鹿乗橋付近までは、名古屋の奥座敷ともいわれる景勝地で、愛知高原国定公園にも指定されており、かつて多くの旅館がありました。
今は、應夢亭(おうむてい)1 件が料亭旅館として営業しているだけです。
女将さんに聞くと、祖父が定光寺駅を造るときに孤軍奮闘したそうで、少しでもお客を増やそうと大正 6 年に先代の女将さんが創業し、それからまもなくして駅ができたとのことです。

崖にへばり付くように建てられた定光寺駅

昭和初期には 7 件の料理屋があり 15 人から 30 人程の芸者がいて、利用者は主として瀬戸の陶器商人

達とのことでした。
　戦争中は陸軍の保養所となり、戦後は米軍の専用娯楽場となりました。

　定光寺の駅は川沿いの崖にへばり付くように建てられており、秘境の趣ある駅です。
　地元の人たちが観光地として駅誘致に力を入れ、大正８年に定光寺仮停車場として旅客営業を開始し、大正13 年(1924)に勝川駅、高蔵寺駅に次いで春日井市３番目の駅となりました。
　應夢亭でコーヒーを頂き、元気が出てきた所で再度出発することとしました。

キ　再度出発!

県道 205 号はこの城嶺橋を渡り左へ
廃墟となった千歳楼が見える

　県道 15 号と別れて､城嶺橋を渡り県道 205 号を行くこととします。
　逆に行くと紅葉の綺麗な定光寺に行きます。
　南北朝時代(1336)創建の臨済宗妙心寺派の定光寺には、尾張藩の初代藩主徳川義直の墓があります。

　城嶺橋の上から庄内川の上流を眺めると、川床に砂岩と頁岩の互層による規則正しい配列が自然の景観美として観察できます。
　白っぽい岩石は砂岩で、黒っぽい岩石は頁岩でそのコントラストが美しく、橋の下流はチャートと頁岩の互層になっており上流とは岩質を異にしています。
　川は岩石の屹立する中を急流となって流れています。また瀬と淵も多く存在しており、よく見ると淵のあたりには多くの魚が見えます。

城嶺橋の上から上流を見る

　春日井の東部山地にあたるこの地域は、奥から弥勒山、大谷山、道樹山と 400m 級の峰々が連なっており、内津峠から定光寺までの尾根すじは、東海自然歩道の春日井コースとしてよく整備され、多くの人々に利用されています。
　このあたりは鞍部にあたり、太古の昔は海の中で、その地層が力を受け盛り上がり東部山地が出来上がり、その古生層の岩盤を侵食して、この美しい玉野渓谷が出来上がったとのことです。
春日井自然友の会

城嶺橋の上から下流を見る

　橋を渡り右に行くと定光寺の駅で、左に折れると廃墟となった千歳楼があります。
　千歳楼は 1954 年に創業し 1994 年頃ピークを迎えましたが､自家用車の普及などによって徐々に信州・飛騨といった場所に名古屋からの観光客を奪われるようになりました。
　名古屋の奥座敷といわれた観光地でしたが観光客が少なくなり破産しました。
　建物の根抵当権が大手都市銀行から債権回収会社に移り、管財人との連絡も取れなく

慰霊碑

東海自然歩道の看板

なったため、取り壊しを行うことも難しくなって廃墟となっているとのことです。

少し行くと右側に東海自然歩道の看板が見えました。

その下に愛岐トンネル工事で亡くなられた 20 余名のかたの慰霊碑があります。

明治 29 年 11 月着工、明治 33 年 7 月開通、わずか 10 キロの間に 14 のトンネルを掘る難工事であったそうです。

ここを上がっていくと、上には、玉野園地がありますが、その手前に定光寺ロックガーデンといって、クライミング愛好家の絶好な練習場となっています。

北側の岩体　ロックガーデン

ク 地層・岩石

ロックガーデンは 2 つの大岩体が平行に並んでおり、北側の岩体は幅 35、高さ 10m、岩質は灰色層状のチャートで、南側の岩体は高さが 20m で母岩のチャートが熱変成を受けて軟珪石に変化して脆くなっているそうです。

この辺は太古の昔、海の中で、地殻の変動によって海の底が隆起し、この様な岩盤が現れ、その古生層の岩盤を川が侵食して美しい地形をつくっています。

下流の河原には、ここの堆積岩が侵食された礫が見られますし、中には温度や圧力などの影響を受けた変成岩と呼べる珍石もみられます。

再度カヌーに乗船した場所
城嶺橋の下流 100m

ケ 再度乗り場を探す

県道 205 号を川に沿って下っていくが、車はあまり通らない道です。

左側には玉野用水が発電所まで流れており、そのフェンスがあるので河原に降りられる場所がみつからなかったが、なんとか河原に降りることが出来ました。

カヌーを組み立てて一服すると、今まで気が付かなかったが「うぐい」がいっぱいいます。

水はきれいです。

庄内川の城嶺橋から玉野橋までの間は、大きな岩盤を川が侵食したところで、岩の大きな窪みにたまった水に入ると、暖かくて、まさに温泉に浸かっているような気分です。

30 分ほど休憩し、出発することとしました。

群泳するウグイ

右が玉野水力発電所、奥が玉野橋

コ　再度カヌーで出発 ！

右手には玉野水力発電所があり玉野橋が見えてきました。
この辺りは流れが穏やかで神秘的な所です。
岩石の中を急流となって流れているのとは一変して、川が淵となっており水の流れも緩やかで密林の湖の様相を呈しています。
この神秘な湖にずっと居たい気持ちでしたが、この場を一周して進むこととしました。

水遊びをする人

玉野橋を過ぎると川は右に大きく曲がっており、その内側の岩場で、バーベキューや水遊びをしているグループがいました。
川のカーブの内側の河原や川床は直径 20 ㎝程の石で構成されており、自然の美しい川の姿を見せています。
この右岸の上は、水田地帯になっており、高蔵寺第 5 号墳があるので、カヌーを係留して行ってみることにしました。

バーベキューをする人

河原から上がると、見渡す限りに広がる田園風景です。
なんとも美しく整然とした水田が広がっており、青々とした出穂前の苗を玉野用水から引かれた水が田を潤していました。
どこかで見たことがあるような「日本の原風景」がそこにありました。
その中にポツンと古墳らしきものがありました。注意しないと見落としてしまいそうな小さな古墳です。

なんとも美しい水田
玉野用水路の水が水田を潤している。

水田の中にある高蔵寺第 5 号墳

サ　玉野川渓谷を過ぎ松河戸へ

再度カヌーに乗り込み進むと、川の中の岩が少なくなり、川床は小石の様だ。
川は大きく右に曲がり、ゆったりとした流れになってきた。
うぐい川、水野川が合流する地点で、砂浜も所々にある。
しかし、油断は大敵だ。

鹿乗橋手前の急流。カヌーが転覆した所

川が左に曲がり始め鹿乗橋が見えてきたと思ったら川幅が狭くなり川の流れが急になってきた。
あっという間に鹿乗橋の手前でカヌーが転覆し放り出されてしまった。
何が起こったか分からず水中に沈むことになったが、なんとか岸までたどり着くことができた。
やはりヘルメットとライフジャケットは命を守る必需品だ。
鹿乗橋の手前は、堤から堤の幅は広いのですが、傾斜があり川幅が狭く流れが早いので、カヌーをするにはおもしろいが注意が必要です。

鹿乗橋の高蔵寺側正面崖下に、岩をくり抜いて馬頭観世音菩薩が祀られています。
これは明治 43 年、橋の架設のときに、近くの馬車曳業の人々によって建立されました。

愛環鉄道、奥に愛知用水サイホン橋　（鹿乗淵辺り）

鹿乗橋を過ぎると、淵になっており水深が深く流れも緩やかで川の色も淵的神秘です。
愛環鉄道、サイフォン橋を過ぎると川幅も広くなり、まず右側が開けます。
この辺りで、東部山地を抜け玉野川渓谷も終わりです。

今までは、岩石の屹立する中を急流となって下ってきましたが、一転川幅も広がり濃尾平野の中をゆったり流れる川となります。
右岸は高蔵寺です。東谷山を過ぎると左岸も開け上志段味になります。
東谷山は、名古屋市守山区と瀬戸市にまたがる名古屋市最高峰の山です。
といっても標高 198m 程で、30 分もあれば山頂に到達できるお手軽な低山です。
山のふもとには志段味古墳群が広がっています。

東谷橋を過ぎると、後は、川の流れに身を任せて、松河戸グラウンドまでの旅でした。
その間のエピソードや感じたことについて、まとめて記載します。

② 河原の礫について

高蔵寺あたりから下流は、川幅が広くなり、所々に大きな河原が形成されており、河原では上流から運ばれてきた堆積岩が多くみられますが、火成岩や変成岩など幾種類もの礫が見られます。
色とりどりのチャートや頁岩、花崗岩、ホルンフェルスなどが転がっており、たまに珪化木やメノウなどの珍石も観察できるとのことです。

岐阜県東濃地方から愛知県にかけて広く分布している第 3 紀層の瀬戸層群と呼ばれる砂礫層中に含まれている礫が、そのまま庄内川へ流れて来ます。
庄内川の礫の大半がこの礫で、礫種は放散虫が含まれた堆積岩のチャートが主で、古生層中のものに比べ、赤・緑・茶など色鮮やかなのが特徴です。
この地層からは陶土やケイ砂が採掘され瀬戸焼の材料にもなっています。
放散虫は原生動物に属し、ケイ質の殻あるいは骨格をもった浮遊性の海棲プランクトンで、放射状の

とげがあり、さまざまな形態をしています。現在も熱帯の海を中心にほとんどすべての海に生息していいます。

出現は先カンブリア時代の末期（約 7 億年前）とされており、以後さまざまに分化し、現在に至っています。

放散虫は、殻がケイ質のため、化石として保存されやすく、道樹山・高森山などを含む春日井市東部地域に見られる古生層も、主にこのチャートからできています。

他には幾種類かの火成岩（花崗斑岩・石英斑岩、流紋岩・石英安山岩・安山岩など）、希に碧玉（ジャスパー）・メノウ・珪化木などを見ることができます。

また、古虎渓、定光寺付近では古生層という硬い岩盤をつくっており、それらが砕かれ礫になって流れてきます。

砂岩、頁岩、チャートなどの堆積岩、これらが熱や圧力などによって変質した変成岩も見ることが出来ます。

岐阜県の飛騨地方や東農地方にかけて分布している花崗岩などの火成岩類も流れてきます。

たまに、土岐石と呼ばれる江戸時代から珍重された石も流れて来ることがあるそうです。

河原ではこれらの上流から運ばれてきた幾種類もの礫を観測でき、庄内川流域の地層・岩石を学習する格好の場所となっています。　　郷土史かすがい　第 52 号　庄内川の礫

庄内川の河原にころがっているレキを調べると、その半数以上がチャートである。
また、道樹山・高森山などを含む春日井市東部地域に見られる古生層も主にこのチャートからできている。（ただし、かなり変成作用を受けている。）
このチャートは、たいへん硬く、緻密(ちみつ)な作りをしている堆積岩である。
成分は、ほとんどが二酸化ケイ素である。
また、色は赤茶色または白っぽいものが多い。

鹿乗橋手前の河原　→

新東谷橋手前の河原　→

松河戸の河原

濃飛流紋岩

ホルンフェルス
（接触変成岩）

堆積岩		砂岩、頁岩、チャートなど
火成岩	火山岩	流紋岩、安山岩、玄武岩など
	深成岩	花崗岩、斑レイ岩など
変成岩		片麻岩、片岩、角閃岩など

頁岩

珪化木… 樹木が原型を変えずに二酸化ケイ素（シリカ）という物質に変化
メノウ…　火成岩や堆積岩の空洞中に層状に沈殿した鉱物の変種である。
碧玉…… 微細な石英の結晶が集まってできた鉱物で、宝石の一種。

③ 堰堤について

今回の川下りの行程のなかで 4 つの堰堤がありました。

(①玉野堰堤、②大留辺りの堰堤、③上条用水取水堰、④中切の堰堤)。

堰堤は、庄内川の水運利用には障害になりますし、庄内川の水量不足から、水運があまり発達しなかったのも理解できました。

また、水を取水するためには、堰を設ける必要がありますが、堰は川の流れを妨害し大雨の時は危険になります。先人の苦労がよくわかりました。

上条用水取水堰　下流から

中切の堰堤　左岸から

④ 川の水質について

水質については、きれいになったと感じました。

しかし、国土交通省調査によると　全国の一級河川では下位であるとのことです。

25 年くらい前までは常時陶土が流入して水が真っ白でしたが、今は水も澄んでいます。

玉野川渓谷の辺りでは、のどが渇けば川の水も抵抗なく飲めるような気がするのですが、さすがに松川橋あたりでは奇麗になったといっても飲めません。

ご高齢の方に聞くと、だれも戦前の庄内川はきれいで美しい川だったと言います。

庄内川の水質は、昭和 30 年代から 40 年代にかけて、陶磁器原料、釉薬生産、製紙工場等の排水や、生活雑排水の流入により悪　化しました。

庄内川の BOD 平均値（mg/l）
平成 26 年度調査

調査地点	平均値	類型
多治見橋	1.0	B
城嶺橋	1.1	B
大留橋	1.3	D
水分橋	3.0	D

庄内川河川事務所

松河戸から上流は、白濁水となっており、下流はパルプ排水独特の硫黄化合物で何とも言えない異様な色をしていました。

その後、昭和 45 年に制定された水質汚濁防止法の排水規制や下水道整備により改善されてきたこともあり、現在では河川敷でのスポーツ、散策など市民の憩いの場所になりつつあります。

庄内川をきれいにする会など、多くのボランティアグループが活動されています。

今回の川下りで、地域の方だと思いますが、川辺を掃除しているグループを見かけました。

⑤ 川でみかけた生物について

群泳するウグイ

玉野川渓谷の辺りでは、岩場の浅瀬で「ウグイ」が集団で泳いでいました。

また、よく見るとメダカ(?)の様な小さな魚も多くいました。

空を見上げると、何種類かの「サギ」や「カモ」「トビ」なども飛んでいました。

大留の辺りでは、「カワウ」の大群が水遊びをしていました。

中切の堰堤では、カヌーの中に「オイカワ」という魚が飛び込んできたので、家へ持ち帰りました。

大留橋(今は撤去されている)あたりで、アヒルを 2 羽で泳いでいるのを見かけました。

近づいても逃げないので、誰かが飼っていたものと思われます。

今回の川下りでみかけた動物

イカルチドリ
鹿乗橋辺りで見かけました。

トビ
玉野川渓谷で何羽もみかけました。

カルカモ
大留辺りに沢山いました

カワウの群れ
中切の堰堤から上条用水取水堤辺りに集団で居ました。

サギ
上条用水取水堤辺りで数羽みかけました

オイカワ(はえ)
中切堰堤防の辺りでボートの中に飛び込んできました。11 ㎝程ありました。

その他
メダカ
蟹(かに)
アヒルなど

その他
メダカ
蟹(かに)
アヒルなど

⑥ 河原の利用について

庄内川は大きな蛇行を繰り返しながら流れており、カーブの内側などは河原となっています。

愛知環状鉄道の辺りまでは、渓谷のなかにあるため、所々にある小さな河原で釣りや水遊びなどを楽しんでいる家族連れやグループがみられました。

東谷橋辺りからは、川幅も広がり大きな河原があり、河川敷では運動場などが造られて市民の憩いの場となっています。

新東谷橋の下は高蔵寺運動広場、吉根橋の手前は熊野グラウンド、上条町の対岸の吉根町には、野球グラウンドや運動場、バギーコース、ドローンスクール場など大規模な運動施設となっています。

下津町では大規模な河原畑として利用されており、松河戸では松河戸グラウンド、勝川橋の下左岸では野球場や、ゴルフ練習場として利用されています。

しかし、多くは草が生茂り、河原にたどり着けないようなところが多くあります。
このとてつもない大きな空間を、もっと有効利用しなくてはもったいないと思います。

松河戸の河川敷は、野球場、運動場として利用されていますが、せっかくの川ですので、散策路を整備し、釣り、水遊びができる住民の憩いの場となるよう、皆が庄内川に関心をもち、水質を更にきれいにする必要があります。

⑦ 約20キロのリバーツーリングを終える

松川橋を過ぎると、今回の川下りの終点となる。
河原に乗り上げカヌーから降りると足がもたつく。
空気を抜きリュックにしまう。
缶ビールを取り出し飲む。
生ぬるいビールだったが最高の味だった。

松河戸の河原
川下りを終え、今、下ってきた上流を望む。
上流にみえるのは今くぐってきた松川橋

松河戸文化科学探求隊
隊長　長谷川 浩
080－3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
http://matsukawado.com/

⑧　川で遊ぶ前に

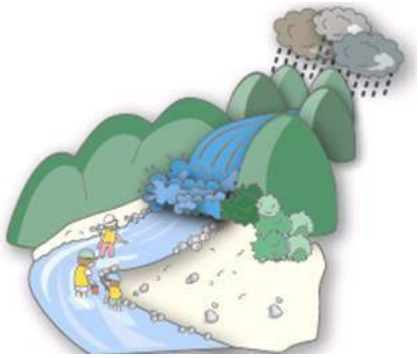
川は普段は穏やかでとても楽しいところですが、時には恐ろしい姿に変わります。
増水時の川原は大変危険です。くれぐれも近寄らないでください。
でも、気をつけて遊べば大丈夫！
天気や川の流れに十分注意して、楽しく遊びましょう。

○　川遊びのルール

・自然が相手。自分の身は自分で守りましょう。
・仲間と出かけ、お互いに注意して遊びましょう。
・遊ぶ前には下見をし、遊んでいるときも天気や流れに気をつけましょう。
・ライフジャケットをきちんと着けましょう。
・自然を感じ、思いっきり楽しみましょう。

○　川に行ったら･･･

・川の近くにある看板には遊ぶ際の注意が書いてあります。きちんと読んで遊びましょう。
・こんな時にはすぐ避難！（川の水が急に増えるサインです）
　・水が流れてくる方の空に黒い雲が見えたとき
　・落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき
　・雨が降り始めたとき
　・雷が聞こえたとき
・雨が降っても橋の下では絶対に雨宿りはしないでください！



国土交通省のホームページから